

2022年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

名 称	京都情報大学院大学 The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics
創 立	2004年
所 在 地	〒606-8225 京都府京都市左京区田中門前町7番地 TEL (075) 711-0161 FAX (075) 722-2283 URL https://www.kcg.edu/
研 究 科	応用情報技術
専 攻	ウェブビジネス技術
修 学 年 限	標準2年間
学 位	情報技術修士（専門職） Master of Science in Information Technology (M.S. in IT)
建学の理念	社会のニーズに応え、時代を担い、次代をリードする高度な実践能力と創造性を持った応用情報技術専門家を育成する。
使命・目的	IT社会の高度かつ多様な人材ニーズに応え、さらに、ユビキタス時代のビジョンにおいて、従来以上の高度な技術、幅広い知識と国際性を有した高度なITプロフェッショナルズを供給することを通じて、高度情報化社会の実現と経済発展に貢献する。 情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等を教授し、以って高度専門職業人の養成を目的とする。
教育目的	ウェブビジネス技術専攻 本専攻は、情報およびその関連技術の発展に即応し、理工学・経営学等の関連する学問分野の理論および応用技術等の教授・研究を通じ、広い視野に立った基礎的思考能力と専攻分野における高度の専門性を要する職業等に必要の高度の技術能力を備えた、高度専門職業人の養成を目的とする。
教育目標	本学の使命・目的を学生の教育において実現するために、本学のウェブビジネス技術専攻の教育目標を以下のように掲げる。 目標1：基礎的素養の確保 コミュニケーション能力を始めとして、ビジネスを推進する基礎となる社会的スキルを身につける。また、IT（ICT）を構成するソフトウェア・ハードウェア・ネットワークなどの基盤技術について理解する。 目標2：企画・設計能力の向上 ビジネスとそれを支えるIT（ICT）の現状および動向を広く調査・

分析し、企業や社会が抱える課題に対して合理的なアプローチを企画・立案できるようにする。また、それを具体化するための様々なシステムやコンテンツを設計できるようにする。

目標3：開発・運用能力の向上

企画・設計されたシステムやコンテンツを、ソフトウェアによる実装や利用者への提供などを通じて、実際に活用できるようにする。また、それら開発・運用に必要な様々なツールや規約などに関する実務的知識を深める。

目標4：職業人意識と倫理観の醸成

ビジネスプロセスを責任を持って担当し、それらを継続的に改善していきけるような高い職業人意識と倫理観を養う。併せて、実践的なリーダーシップや組織管理の方法論などを学ぶ。

アドミッション・ポリシー (Admission Policy; 入学者の受入れに関する方針)

IT (ICT) 分野は情報系・経営系の融合領域であり、その対象は複雑多岐にわたっており、この分野で活躍できる人材に対する産業界のニーズは多様化する一方です。工学部出身者を前提とする工学系研究大学院のみにIT (ICT) 分野の人材育成を委ねていた従来の教育体制では、産業界の多様な人材供給のニーズに応えることは不可能でした。今後の産業・経済の発展のためには、極力多様なバックグラウンドを持った人材をIT (ICT) 分野の高度専門職業人として育成していくことが必要です。

こうした観点から、本学は、出身学部を限定することなく、極力多様なバックグラウンドを有する以下のような学生を広く受け入れる方針です。

1. 本学において専門知識を修得するための基礎学力を有する人
2. 既成概念にとらわれず、新しいことを学び、自ら考え、創造する意欲を有する人
3. 周囲と協力し、コミュニケーションを通じて問題を解決する意志を有する人

カリキュラム・ポリシー (Curriculum Policy ; 教育課程の編成及び実施に関する方針)

本学では、その使命・目的に基づき、IT (ICT) スキルとマネジメントスキルとを兼ね備えた、ウェブビジネス分野で活躍できる高度専門職業人を育成するためのカリキュラムを実施する。

1 科目群

教授すべき科目の総体を、特定の専門領域に関する知識を深めることができるよう、体系付けグループ化された専門分野 (Fields of Concentration) 科目群、特定の業界についての専門・周辺知識学習や事例研究等も含め、技術の実践的活用を念頭に置いた産業 (Industry) 科目群、さらにヒューマンスキルや高度な理論、最先端技術動向について学ぶ共通選択科目群 (Supporting Elective) に大別する。

2 履修モデルの編成と実施方式

学修の目的・志向に応じて、広範な I T 関連知識の中で特定の分野において基礎から応用・実践まで広く深い専門知識を身につけることに重きを置き、系統立てた特定の分野の科目を集めた各専門分野 (Fields of Concentration) から、1 つの分野を選択し学ぶものとする。これとは別に、多様な学生の個々の修学目的に応じた科目を選択する履修モデルとしてビスポーク (Bespoke) カリキュラムも選択可能とする。専門分野およびビスポーク (Bespoke) カリキュラムのなかで、I C T の適用分野である各種産業における個別の知識や問題発見・企画・設計力の養成・技術の実践的活用を目指す産業 (Industry) 科目を併せて選択して履修することもできる。

3 課程修了プロジェクト (Master Project)

各種科目の履修と併せて、担当教員の指導のもとで様々なテーマを追求する課程修了プロジェクト (Master Project) を遂行し、実践的な応用能力の育成を図る。

4 変化への対応

I T (I C T) 分野の急速な発展に対応するため、高度専門職業人に必要とされるコンピテンシーの変化に合わせて、カリキュラムの見直しと更新を常に行う。

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy ; 学位授与の方針)

本学においては、以下の 3 つの要件をすべて満たした者に対し、修士 (専門職) の学位を授与する。

1. 定められた修了年限を全うすること
2. 定められた必要単位を修得すること
3. カリキュラムに沿った履修方法によって科目を履修し、高度専門職業人としての基礎となる知識、応用力、ならびに高い倫理観を身につけていること。

(2) 当該学校の入学定員・学生数 (2022年5月1日現在)

入学定員 600名
 収容定員 1,200名
 学生数 1,437名

(3) 当該学校の入学志願者数、受験者数、合格者数等の入学試験に関する状況について

	志願者数	合格者数	入学者数
2018年度	479	386	360
2019年度	770	632	612
2020年度	833	676	638
2021年度	960	722	671
2022年度	834	777	751

(4) 当該学校の修了者数, 学位授与数等の状況について

2022年9月: 319名

2023年3月: 324名

(5) 役員・評議員・教職員の概要等(2022年5月1日現在)

理事長 長谷川 亘

学 長 茨木 俊秀

研究科長 茨木 俊秀

専攻主任 手塚 正義

理 事 9名

評 議 員 19名

監 事 2名

教 員 122名(専任), 26名(兼任)

職 員 30名

2. 事業の概要

(1) 国際協力事業

(ア) 派遣講義(オンライン)

(ア) -1. 中国・上海建橋学院

・2022年3月1日(火)～5月31日(火)

・2021年9月1日(木)～11月30日(水)

(ア) -2. 中国・天津科技大学

・2022年2月28日(月)～4月21日(木)

・2022年8月29日(月)～9月16日(金)

(ア) -3. 北京郵電大学世紀学院

・2022年2月21日(月)～3月11日(金)

・2022年8月22日(月)～10月12日(水)

(ア) -4. 上海東海職業技術学院

・2022年3月31日(木), 4月1日(金)

(ア) -5. 浙江越秀外国語学院

・2022年11月1日(火)～2023年2月10日(金)

(ア) -6. 蘇州工業園区服務外包職業学院

・2022年11月9日(水)～2022年11月28日(月)

(ア) -7. 無錫職業技術学院

・2022年3月17(木)～3月28日(月)

(ア) -8. 常州信息職業技術学院

- ・ 2022年9月13日（火）～10月12日（水）
- (ア) -9. 蘇州工業職業技術学院
 - ・ 2022年11月9日（水）～11月28日（月）
- (ア) -10. 大連東軟信息学院
 - ・ 2022年11月27日（日），12月11日（日）

(イ) 海外教育機関との提携について

2022年度は、海外6校と協力教育プログラムの締結、海外22機関と学生の推薦に係る提携を結んだ。

(2) 国内協力事業等

(ア) オンラインセミナーの開催

- ・ 2022年6月21日
 - 「『Smart City』の今とこれから」
 - （主催：一般社団法人京都府情報産業協会 共催：京都情報大学院大学，京都コンピュータ学院共催，京都府中小企業技術センター 後援：公益財団法人京都産業21，公益財団法人京都高度技術研究所，京都商工会議所，ITコンソーシアム京都）
- ・ 2022年11月17日
 - 「ゲームAIとスマートシティ＝メタバース」
 - 「日本のデジタル政策について」
 - （一般社団法人全国地域情報産業団体連合会，一般社団法人京都府情報産業協会共催，経済産業省，総務省，デジタル庁，京都府，京都市後援）
- ・ 2023年1月20日
 - 「1億総エンジニア社会に向けた京都発次世代エンジニア育成プログラムの創成」（主催：一般社団法人京都府情報産業協会 共催：京都情報大学院大学，京都コンピュータ学院共催，京都府中小企業技術センター 後援：公益財団法人京都産業21，公益財団法人京都高度技術研究所，京都商工会議所，ITコンソーシアム京都）

(イ) 日本IT団体連盟（IT連盟）

2016年7月22日，国内で最大のIT関連の団体となる「日本IT団体連盟（IT連盟）」が設立され，本学園理事長が筆頭副会長に就任して以来，本学においては，本学園理事長が委員長として参加するIT教育委員会に，主にIT人材を多数育成するための教育推進に協力すべく，教職員を参加させるなどし，その一翼を担う活動を引き続き行っている。

(ウ) 一般社団法人日本応用情報学会（Nippon Applied Informatics Society:NAIS）の研究会活動

「日本応用情報学会（Nippon Applied Informatics Society:NAIS）」は，本学教員が中心となり立ち上げた学会で，競争の激化するグローバルビジネス環境の中，日本国内外のIT関連学会および実務系団体と緊密な連携を持ちながら関連分野における人材の育成，IoT関連ビジネス

技術の開発などにおいてその役割を果たすことを活動の目的としている。本学会発行の「NAIS Journal」は、実学志向的な専門家が研究開発した成果物を関係する多くの人々に提供する場として、本学教員が多数投稿している。また、講演会の開催なども企画し、本学教員が業界の最新動向などに触れる場、成果発表の場としている。

2022年2月23日に日本応用情報学会研究会が開催され、招待講演「社会を変える情報通信、その可能性と責任」、及び、研究発表「Kubernetes のセキュリティ強化のためのコンフィギュレーションの体系化とセキュリティツールの試作」「ビッグデータ処理に適したマルチデータベースシステムの構成最適化に関する研究」「海洋 IT の概要 ～航行 IT と船舶通信を中心に～」がなされた。

(3) カリキュラムの改編について

2020年度4月生より、学生の多様な興味に応えるため、これまでよりさらに広い範囲の応用情報学を対象とする新カリキュラムが実施されている。2021年度においても、科目の見直し等を行いより充実を図っている。

多くの大学院で採用されている、修了に必要な標準的な32単位を核として、高度な知識の修得・研究を志す学生、専門知識を持った上でより幅広く学びたいと考える学生、あるいは幅広く学びキャリアチェンジを考えている学生など、アカデミックコーディネーターとの履修相談によって様々に対応が可能となっている。これは本学の修了に必要な単位が44単位であることで、標準的な32単位に加え、それより12単位分多い学修を、各学生のそれぞれの特性に合わせた履修を可能とするものである。

2021年秋学期より人工知能専門分野を新たに設け、この専門分野を希望する学生を受け入れている。人工知能専門分野では、人工知能の基礎理論やデータサイエンスなどの関連技術を学び、人工知能応用分野でそれらがどのように活かされているのかを実例を通して理解するとともに、関連のソフトウェア習熟することにより、人工知能技術を活用できる専門家を目指す。併せて、人工知能応用ソフトウェアの開発も担える高度な技術者の育成プログラムも準備している。

(4) コロナ禍の対応

2020年度から引き続き、2022年度も、新型コロナウイルス感染症の広域流行により、通常とは異なる対応を行った。

本学が行った対応には、主に以下のようなものがある。

・オンライン授業の継続

2020年度春学期以降は新型コロナウイルス感染症拡大予防対策における健康面を考慮し、キャンパス内の教室で対面での参加またはリアルタイムオンラインで参加のいずれかを学生が選択できるハイブリッド形式や、リアルタイムオンライン形式で授業を実施しており（いずれもZoomを使用）、大学のキャンパスに限定されず、自宅から参加したり日本へ入国が出来ない留学生が海外から参加したり、また離れた場所にいる学生とのコミュニケーションも円滑に行うことができ、支障なく授業を行うことができた。2022年度秋学期からは、百万遍キャンパスの新校舎が完成し、ハイフレックス仕様教室のシステムを利用して、対面で参加する学生と学外

から Zoom で参加する学生とのよりシームレスな受講環境が整備されている。

- 学校設備の消毒

学校設備は毎日消毒するとともに、教室や会議室等、複数が利用する可能性のある場所に関しては、各室内に消毒用品を設置し、教職員、学生とも、使用後に各自で消毒するよう徹底した。

- マスク着用・検温等

学生の登校時はマスク着用を徹底し、入構時に検温と手指の消毒を行うようにした。検温には、校舎入口にサーマルカメラを設置している。

- 学生への注意喚起

日頃の生活での留意事項や、感染が疑われる場合の対応など、必要な事項をまとめ、学生にお知らせを行った。

- オンライン相談窓口の設置

学生向けのオンライン相談窓口を事務受付時間内（平日 9 時～17 時）に開放し、質問や相談以外にも、気軽に話ができるようにして、学生の不安や悩みに寄りそうようにしている。込み入った相談などがある場合は、別途予約にて個別に相談できる体制も整えている。

同様に、学習内容に関する相談窓口も別に設け、オンラインでの相談・質問を受け付けている（平日 9 時～17 時）。また、次の分野の学習に関して、学習内容毎に質問等に対応するオンライン窓口を曜日毎に設定している。

学習分野：Python プログラミング、データベース、ERP、ウェブプログラミング

- 教職員の健康管理

教職員には、発熱や風邪症状が見られるときには、出勤しないことと定めている。出勤者に対して、マスク着用の義務化、手指の消毒、換気を徹底し、感染防止に努めている。

また、会議等は原則としてオンラインで行うこととしている。

（5）教育環境の拡大・充実化

京都市より取得した百万遍本校に隣接する旧左京保健センター跡地（1828.99㎡）に、新校舎（百万遍キャンパス本部棟）（延床面積約5270㎡）が2022年8月に竣工した。新校舎は地上4階地下1階建て。1階と地下1階にまたがる階段型教室で最大200名収容可能な大講義室は、授業以外に講演会、コンサート、演劇や映画鑑賞など多目的に利用ができる。また、アクティブラーニングなど多様な学習形態に対応可能なハイフレックス仕様の教室、新しい発想の展開を促進させるイノベーションルーム、オンライン授業・ミーティングに対応する個人用ワークブース、などを備えている。

3. 財務の概要

2022年度事業の収支及び財務状況の概要

(1) 資金収支計算書

【収入の部】

(単位：千円)

科 目	補正後予算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	2,698,262	2,754,530	△56,268
手数料収入	39,500	53,965	△14,465
寄付金収入	1,260	1,260	0
補助金収入	150,000	156,655	△6,655
付随事業・収益事業収入	96	96	0
受取利息・配当金収入	15	27	△12
雑収入	24,000	26,056	△2,056
借入金等収入	1,600,000	1,600,000	0
前受金収入	676,000	1,018,659	△342,659
その他の収入	110,900	125,647	△14,747
資金収入調整	△937,230	△982,742	45,512
前年度繰越支払資金	2,623,594	2,623,594	
収入の部合計	6,986,397	7,377,747	△391,350

【支出の部】

(単位：千円)

科 目	補正後予算	決 算	差 異
人件費支出	575,000	578,456	△3,456
教育研究費支出	1,324,130	1,376,745	△52,615
管理経費支出	247,900	268,056	△20,156
借入金等利息支出	2,700	3,482	△782
借入金等返済支出	850,000	850,000	0
施設設備関係支出	1,233,000	1,154,596	78,404
その他の支出	97,708	137,419	△39,711
予備費	3,000		3,000
資金支出調整勘定	△32,600	△37,389	4,789
翌年度繰越支払資金	2,685,559	3,046,382	△360,823
支出の部合計	6,986,397	7,377,747	△391,350

(2) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

事業活動収入の部	科目	補正後予算	決算	差異
	学生生徒納付金	2,698,262	2,754,530	△56,268
手数料	39,500	53,965	△14,465	
寄付金	378	1,875	△1,497	
経常費等補助金	150,000	156,655	△6,655	
付随事業収入	96	96	0	
雑収入	24,000	26,056	2,056	
教育活動収入計	2,912,236	2,993,178	△80,941	
事業活動支出の部	科目	補正後予算	決算	差異
	人件費	590,000	590,555	△555
	教育研究費	1,374,130	1,410,675	△36,545
	管理経費	248,900	268,426	△19,526
	徴収不能額等	5,000	2,417	2,583
	教育活動支出計	2,218,030	2,272,073	△54,043
教育活動収支差額		694,206	721,105	△26,898
事業活動収入の部	科目	補正後予算	決算	差異
	受取利息・配当金	15	27	△12
	その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計		15	27	△12
事業活動支出の部	科目	補正後予算	決算	差異
	借入金等利息	2,700	3,482	△782
	その他の教育外活動支出	0	0	0
教育活動外支出計		2,700	3,482	△782
教育活動外収支差額		△2,685	△3,455	770
経常収支差額		691,521	717,650	△26,128

特別 収 支	事業 活動 収入 の 部	科 目	補正後予算	決 算	差 異
			資産売却差額	0	0
		その他の特別収入	882	882	0
		特別収入計	882	882	0
	事業 活動 支出 の 部	科 目	補正後予算	決 算	差 異
		資産処分差額	0	3,576	△3,576
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	3,576	△3,576
		特別収支差額	882	△2,694	3,576
		[予備費]	3,000		3,000
		基本金組入前当年度収支差額	689,403	714,955	△25,552
		基本金組入額合計	△500,000	△397,421	△102,579
		当年度収支差額	189,403	317,534	△128,131
		前年度繰越収支差額	1,275,681	1,275,681	0
		基本金取崩額	.0	0	0
		翌年度繰越収支差額	1,465,084	1,593,215	△128,131

(参考)

事業活動収入計	2,913,133	2,994,087	△80,953
事業活動支出計	2,220,730	2,279,131	△58,401

(3) 貸借対照表

【資産の部】

(単位：千円)

科 目	2022 年度末	2021 年度末	増 減
資 産 固定資産	2,836,582	1,715,819	1,120,763
流動資産	3,126,253	2,682,621	443,632
合 計	5,962,834	4,398,440	1,564,395

【負債の部】

(単位：千円)

科 目	2022 年度末	2021 年度末	増 減
負 債 固定負債	1,132,541	70,442	1,062,099
流動負債	1,160,604	1,373,263	△212,660
合 計	2,293,145	1,443,705	849,439

【純資産の部】

科 目	2022 年度末	2021 年度末	増 減
基本金	2,076,474	1,679,053	397,421
繰越収支差額	1,593,215	1,275,681	317,534
合 計	3,669,689	2,954,734	714,955
科 目	2022 年度末	2021 年度末	増 減
負債及び純資産の部合計	5,962,834	4,398,439	1,564,395